

ベストクラス選定理由書

作成者：C 班（菅井三実 加納史章 江口真優 大呂優香 久松末樹）

科目名称　　子どものメンタルヘルス（夜間クラス）		（担当教員名：藤原忠雄）
課程：大学院（修士）	開講時期：前期・後期	
授業形態：講・演	授業規模：20人	
インタビュー対象教員名　　藤原忠雄 （実施日時：8月 2日(水) 14時～14時30分；実施場所：教育・言語・社会棟717号室）		
インタビュー対象受講者名　細川愛美 （実施日時：7月28日(金) 18時～18時20分；実施場所：神戸HLC演習室2）		
<p>選定理由</p> <p>本授業は、児童生徒への支援を前提とするストレスマネジメント教育に関する基礎的理解を促し、リラクセーション技法の習得及び活用までを視野に入れた授業といえる。また、授業評価とインタビューから理論と実践を〈体感〉する授業展開であることが窺われ、アクティブ・ラーニングとしての効果が高いものであったと考えられる。</p> <p>【教員へのインタビュー】</p> <p>本授業は、教員が本学に着任してから〈10年間〉継続して開講している科目であり、一貫して受講者と教員の双方向での〈フィードバック〉を基に、より良い授業を追求しているという。授業の目標は、〈受講生がリラックス上手・ストレスと付き合い上手になる〉ことと、指導者の立場として、〈児童生徒がリラックス上手・ストレスと付き合い上手になれるように支援できる〉ことの2本柱である。また、授業は15回の流れを常に意識しつつ、前後半の2ステージに分かれており、前半は〈様々な体験〉から自分に合った技法を見つけ、後半は〈ホームワーク〉で日々活用するなかでの理論的背景や指導の留意点等を学んでいく。さらに、一人一人の感想や質問を全員でシェアすることによる学びの共有・個人差の違いを大切にしていることや、Pre・Mid・Postにおける受講生の行動面・心理面・身体面のデータを集計し、過去の受講生や受講生以外のデータとの比較による各技法の効果・変化を視覚化することなどにより、実践力の向上が図られていると考える。</p> <p>【学生へのインタビュー】</p> <p>従来の大学院の授業のイメージとは異なり、〈自分の身体で体験し学び、自分に還ってくるのが実感できる〉授業であるという。学生は理論の学び直しを目的としていたが、本授業によって現場での取り組みや今までの思いが〈確証〉へと変わり、〈根拠〉となり、〈人に伝えることへの自信〉に繋がっているとのことである。また、授業展開のプロセスがわかりやすく、自分で学んでいくことができることも利点として挙げている。そして、15回の授業で終わりではなく、〈リラクセーションは自分で継続して、生活の中に取り入れていく〉。そのためには、〈自分の努力は必要〉であるが、体験と理論が結びついているため、すぐに授業の内容を振り返ることができるのが強みとなっている。</p> <p>【総括】</p> <p>本授業の総合評価は3.90ポイントであり、履修者と回答数が同数ということから本評価は受講者全員の総意であることが窺える。自由記述欄も高評価の記載が多く、教員・子ども・保護者を含め誰にでも適応できる内容・技法の習得に特化した授業は他になく、授業の充実度の高さが推察される。また、理論と実践を流動的に学べる授業展開への称賛の声もある。そこで、授業評価の高さ、自由記述欄の具体性、インタビュー内容を勘案し、本授業をベストクラスに相応しいと結論した。</p>		

